

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書 兼 事 務 事 業 事 後 評 価 調 書

様式 1

No. 12020010

政策目標	3	のびやか・雄武～教育・文化の振興～	会 計 区 分	1	一般会計	【全体計画内容】 ※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	12	学校教育の充実	事 業 優 先 度		B	
単位施策	1	小中学校の教育内容の充実	政 策 事 務 分 類	3	単独自治事務(その他)	
事業名	生涯学習推進事業		見 直 し 年 度			
事業期間	平成30年度～令和4年度		担 当 課	12	教育委員会教育振興課	
事業主体	雄武町		関 係 課		#N/A	
事業指標	学習会、講座の開設				#N/A	
事業目標	生きがい大学、町民大学、成人講座の開催		ハート／ソフト事業区分	2	ソフト事業	
町民参加	無		関係例規・法令名	無		
町民協働	無		関係個別計画名	無		

計 画 内 容	全 体 計 画		平成 30 年度	令和 元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度		
	事 業 内 容		事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容		
計 画 内 容	高齢者教室「生きがい大学」 町民大学 成人講座 高齢者教室交流の集い(4年に1度)		高齢者教室「生きがい大学」 町民大学 成人講座	高齢者教室「生きがい大学」 町民大学 成人講座	高齢者教室「生きがい大学」 町民大学 成人講座	高齢者教室「生きがい大学」 町民大学 成人講座 高齢者教室交流の集い	高齢者教室「生きがい大学」 町民大学 成人講座		
	計 画 事 業 費	事業費(千円)	2,830	540	540	550	650	550	
		財 源 内 訳	国庫支出金	0					
			道支出金	0					
			地方債	0					
その他			0						
一般財源	2,830	540	540	550	650	550			
実 績 事 業 費	事業費(千円)	749	529	220	0	0	0		
	財 源 内 訳	国庫支出金	0						
		道支出金	0						
		地方債	0						
		その他	0						
一般財源	749	529	220						
関 連 事 項	特定財源の名称	【 評 価 ・ 実 績 】	(実施内容等) 生きがい大学の開催8回 町民大学3回 成人講座2回	(実施内容等) 生きがい大学の開催6回 町民大学3回 成人講座2回	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)		
			※事務事業評価結果 B-継続/現状維持	※事務事業評価結果 B-継続/現状維持	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果		
			第5期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値 98%	生きがい大学10回、町民大学4回、成人講座2回 41%	生きがい大学10回、町民大学4回、成人講座2回 0%	生きがい大学10回、町民大学4回、成人講座2回 0%	生きがい大学10回、町民大学4回、成人講座2回 0%	
			後期計画への継続 (継続有り)	全体達成率 19%	生きがい大学10回、町民大学4回、成人講座2回 26%	生きがい大学10回、町民大学4回、成人講座2回 26%	生きがい大学10回、町民大学4回、成人講座2回 26%	生きがい大学10回、町民大学4回、成人講座2回 26%	
				備考欄					

事業名	生涯学習推進事業	評価者 管理職 職氏名	教育振興課長	中村 文隆
		評価者 作成者 職氏名	生涯教育係主事	砂原 雄爾

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

誰、何が(対象)	町民	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標) 指標(指標計算式/解説)	各学級、講座の開設数		
抱える課題やニーズ	町民の学習機会の創出		① 生きがい大学10回 町民大学4回 成人講座2回	目標年度	令和元年度
どのような状態になることを目指したのか(意図)	学習機会の提供による町民の生涯学習の充実			目標値	16回
その結果、どのような成果を実現したいか ※成果=目的	生涯学習を通じて、町民自らが主体的に学習し、その成果を地域活動に生かすとともに地域の活性化が図られる。		②	実績値	11回
内容(どのような手段で何を行ったか)	生きがい大学	講演会(生前整理押し入れ編、マジック・切絵等)、講話(教育相談員)、運動教室2回、紋別地区高齢者教室交流の集い			
	町民大学	講演会(生前整理キッチン編)、料理教室(洋食、中華)			
	成人講座	書道講座、フラダンス教室			
			達成度	68.8%	
			目標年度	令和元年度	
			目標値		
			実績値		
			達成度		

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	町民の生涯学習活動参加へのきっかけ作りの推進は、教育行政が担う必要がある。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
/課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	実施回数については目標値を下回ったが、内容については参加者にアンケートを行った結果、高い満足度を得ることができた。
有効/概ね有効	<input type="checkbox"/> 達成	
/課題あり	<input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input checked="" type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	社会教育委員の会議において講師選定をすることによって、町民ニーズに即した事業内容となり、また、各講師とは事前に打合せを行うことで、事業費の抑制が図られた。
効率的/概ね効率的	<input checked="" type="checkbox"/> 事業費抑制	
/課題あり	<input type="checkbox"/> 人員削減 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	全町民を対象とする学習機会を提供していることから、公平性は保たれている。
公平/概ね公平	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある	
/公平でない	<input checked="" type="checkbox"/> 受益者負担がない <input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る <input checked="" type="checkbox"/> その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A～D】

- A: 計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
- B: ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
- C: 当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
- D: 事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
B		
実施回数は目標に達しなかったが、アンケートなどを行うことで要望内容を踏まえた学習内容とするなど、町民のニーズに応える企画・立案に努めた上で、事業を展開した。		



継続/現状維持	更なる学習内容の充実を図るため、町民目線で企画・立案を行い、継続的な学習機会を提供していく。
---------	--

- ※展開方向の区分
- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
 - 終了 ○休止 ○廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書 兼 事 務 事 業 事 後 評 価 調 書

様式 1

No. 12020020

政策目標	3 のびやか・雄武～教育・文化の振興～	会 計 区 分	1 一般会計	【全体計画内容】 ※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	12 学校教育の充実	事業優先度	B	
単位施策	1 小中学校の教育内容の充実	政策事務分類	2 単独自治事務(個別計画)	
事業名	武雄市児童交流事業	見直し年度		
事業期間	平成30年度～令和4年度	担当課	12 教育委員会教育振興課	
事業主体	雄武町	関係課	#N/A	
事業指標	武雄市への児童派遣及び受入れ		#N/A	
事業目標	派遣児童16名、引率者4名及び受入れ児童16名	ハード/ソフト事業区分	2 ソフト事業	
町民参加	有	関係例規・法令名	無	
町民協働	町民(児童)の参加を募り派遣を実施	関係個別計画名	無	

全 体 計 画		平成 30 年度	令和 元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
事業内容		事業内容	事業内容	事業内容	事業内容	事業内容
計 画 内 容	武雄市への児童派遣及び受入れ	派遣 経費 報償費 10千円 旅 費 580千円 需用費 45千円 負担金 1,808千円 受入 経費 報償費 40千円 旅 費 3千円 需用費 193千円 使用料 12千円	派遣 経費 報償費 10千円 旅 費 596千円 需用費 45千円 負担金 1,904千円 受入 経費 報償費 40千円 旅 費 3千円 需用費 193千円 使用料 19千円	派遣 経費 報酬 24千円 報償費 10千円 旅 費 602千円 需用費 51千円 負担金 1,254千円 受入 経費 報償費 40千円 旅 費 3千円 需用費 199千円 使用料 21千円	派遣 経費 報酬 24千円 報償費 10千円 旅 費 602千円 需用費 51千円 負担金 1,254千円 受入 経費 報償費 40千円 旅 費 3千円 需用費 199千円 使用料 21千円	派遣 経費 報酬 24千円 報償費 10千円 旅 費 602千円 需用費 51千円 負担金 1,254千円 受入 経費 報償費 40千円 旅 費 3千円 需用費 199千円 使用料 21千円
	事業費(千円)	12,122	2,700	2,810	2,204	2,204
計 画 事 業 費	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
	その他	1,950	480	480	330	330
一般財源	10,172	2,220	2,330	1,874	1,874	
実 績 事 業 費	事業費(千円)	4,194	1,971	2,223	0	0
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
その他	660	300	360			
一般財源	3,534	1,671	1,863			
関 連 事 項	特定財源の名称	(実施内容等)				
	武雄市児童交流事業参加者負担金	(実施内容等) 武雄市への児童派遣 児童10名、引率者4名 学校交流・ホームステイ 他 武雄市児童の受入 児童15名、引率者4名 学校交流・ホームステイ 他 ※事務事業評価結果 A-継続/現状維持				
	【評価・実績】	(実施内容等) 武雄市への児童派遣 児童12名、引率者4名 学校交流・ホームステイ 他 武雄市児童の受入 児童11名、引率者3名 学校交流・ホームステイ 他 ※事務事業評価結果 B-継続/内容の見直し・変更				
		(実施内容等) ※事務事業評価結果				
		(実施内容等) ※事務事業評価結果				
第5期計画からの継続(継続有り)	年度目標値	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童16名、受入児童16名	派遣児童11名、受入児童11名	派遣児童11名、受入児童11名	派遣児童11名、受入児童11名
後期計画への継続(継続有り)	年度達成率	73%	79%	0%	0%	0%
	全体達成率	16%	35%	35%	35%	35%
	備考欄					

事業名	武雄市児童交流事業	評価者 管理職 職氏名	教育振興課長	中村 文隆
		評価者 作成者 職氏名	生涯教育係主事	砂原 雄爾

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

誰、何が(対象)	町内小学生(5年生・6年生)	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	派遣児童16人、引率者4人 受入児童16人、引率者4人								
抱える課題やニーズ	異なる地域の文化や生活を体験する機会や、児童による地域間交流を行う機会の不足	指標(指標算式/解説)	目標値及び実績値								
どのような状態になることを目指したのか(意図)	児童の健全育成及び児童による地域間交流の推進	① 派遣児童及び引率者	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>令和元年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>20人</td></tr> <tr><td>実績値</td><td>16人</td></tr> <tr><td>達成度</td><td>80.0%</td></tr> </table>	目標年度	令和元年度	目標値	20人	実績値	16人	達成度	80.0%
目標年度	令和元年度										
目標値	20人										
実績値	16人										
達成度	80.0%										
その結果、どのような成果を 実現したいか ※成果=目的	本町の将来を担う人材の育成と、友好都市である武雄市との地域間交流の更なる発展。	② 武雄市児童受入及び引率者	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>令和元年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>20人</td></tr> <tr><td>実績値</td><td>14人</td></tr> <tr><td>達成度</td><td>70.0%</td></tr> </table>	目標年度	令和元年度	目標値	20人	実績値	14人	達成度	70.0%
目標年度	令和元年度										
目標値	20人										
実績値	14人										
達成度	70.0%										
内容(どのような手段で何を 行ったか)	<table border="1"> <tr> <td>雄武町児童派遣</td> <td>児童12名及び引率者4名を派遣し、学校交流やホームステイを体験</td> </tr> <tr> <td>武雄市児童受入</td> <td>児童11名及び引率者3名を受入し、学校交流やホームステイを提供</td> </tr> </table>	雄武町児童派遣	児童12名及び引率者4名を派遣し、学校交流やホームステイを体験	武雄市児童受入	児童11名及び引率者3名を受入し、学校交流やホームステイを提供						
雄武町児童派遣	児童12名及び引率者4名を派遣し、学校交流やホームステイを体験										
武雄市児童受入	児童11名及び引率者3名を受入し、学校交流やホームステイを提供										

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	児童の健全育成と地域間交流のため、本事業は必要である。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
/課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	派遣児童数は下回ったが、参加した児童たちは文化や歴史が異なる武雄市で様々な体験をしたことによって、期待した効果が得られた。
有効/概ね有効	<input type="checkbox"/> 達成	
/課題あり	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	複数の旅行代理店による見積合わせや航空チケットの早期発注により経費の削減に努めた。
効率的/概ね効率的	<input checked="" type="checkbox"/> 事業費抑制	
/課題あり	<input type="checkbox"/> 人員削減 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	派遣児童は小学5年・6年生に限っているが、等しく募集を行っており、適切な受益者負担を求めている。
公平/概ね公平	<input checked="" type="checkbox"/> 受益者負担がある	
/公平でない	<input type="checkbox"/> 受益者負担がない <input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る <input type="checkbox"/> その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A～D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
B		
派遣児童数は下回ったが、児童の健全育成と地域間交流の事業目的は達成された。		



継続/内容の見直し・変更		
児童の健全育成と地域間交流の推進は重要と考えるため、今後も事業継続が必要である。なお、派遣目標児童数については、募集児童を11名として実施する。		

※展開方向の区分
○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
○終了 ○休止 ○廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書 兼 事 務 事 業 事 後 評 価 調 書

様式 1

No. 12020030

政策目標	3	のびやか・雄武～教育・文化の振興～	会 計 区 分	1	一般会計	【全体計画内容】※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	12	学校教育の充実	事 業 優 先 度		B	
単位施策	1	小中学校の教育内容の充実	政 策 事 務 分 類	3	単独自治事務(その他)	
事業名	家庭教育推進事業		見 直 し 年 度			
事業期間	平成30年度～令和4年度		担 当 課	12	教育委員会教育振興課	
事業主体	雄武町		関 係 課		#N/A	
事業指標	町内各学校での取り組み				#N/A	
事業目標	全学校での開催		ハート/ソフト事業区分	2	ソフト事業	
町民参加	有	PTAとの協働	関 係 例 規 ・ 法 令 名	無		
町民協働			関 係 個 別 計 画 名	無		

全 体 計 画 事 業 内 容		平 成 30 年 度 事 業 内 容	令 和 元 年 度 事 業 内 容	令 和 2 年 度 事 業 内 容	令 和 3 年 度 事 業 内 容	令 和 4 年 度 事 業 内 容
計 画 内 容	家庭教育学級への助成支援 家庭教育講演会の開催	家庭教育学級への助成支援 家庭教育講演会の開催	家庭教育学級への助成支援 家庭教育講演会の開催	家庭教育学級への助成支援 家庭教育講演会の開催	家庭教育学級への助成支援 家庭教育講演会の開催	家庭教育学級への助成支援 家庭教育講演会の開催
	事業費(千円)	1,410	290	250	290	290
計 画 事 業 費	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
	その他	0				
一般財源	1,410	290	250	290	290	
実 績 事 業 費	事業費(千円)	154	100	54	0	0
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
その他	0					
一般財源	154	100	54			
関 連 事 項	特定財源の名称	【 評 価 ・ 実 績 】	(実施内容等) 各学校の学級開設助成支援 開設学級1学級 家庭教育講演会 参加者131名	(実施内容等) 各学校の学級開設助成支援 開設学級1学級 家庭教育講演会 参加者137名	(実施内容等)	(実施内容等)
		※事務事業評価結果 B-継続/現状維持	※事務事業評価結果 B-継続/現状維持	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果
第5期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値	講演会の開催、学級の全校開催	講演会の開催、学級の全校開催	講演会の開催、学級の全校開催	講演会の開催、学級の全校開催	講演会の開催、学級の全校開催
	年度達成率	34%	22%	0%	0%	0%
後期計画への継続 (継続有り)	全体達成率	7%	11%	11%	11%	11%
	備考欄					

事業名	家庭教育推進事業	評価者 管理職 職氏名	教育振興課長	中村 文隆
		評価者 作成者 職氏名	生涯教育係主事	砂原 雄爾

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

誰、何が(対象)	小学生・中学生及びその保護者	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	学級数								
抱える課題やニーズ	親子のふれあい、家庭における学びの場が不足している。	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値								
どのような状態になることを目指したのか(意図)	親子のふれあいによる絆の確立と家庭の教育力の向上を図る。	① 家庭教育講演会1回 家庭教育学級9学級	<table border="1"> <tr> <td>目標年度</td> <td>令和元年度</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td>10回</td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td>2回</td> </tr> <tr> <td>達成度</td> <td>20.0%</td> </tr> </table>	目標年度	令和元年度	目標値	10回	実績値	2回	達成度	20.0%
目標年度	令和元年度										
目標値	10回										
実績値	2回										
達成度	20.0%										
その結果、どのような成果を実現したいか ※成果=目的	家庭の教育力の向上による子どもたちの健全育成と育ちを支える学びの推進	②	<table border="1"> <tr> <td>目標年度</td> <td>令和元年度</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td></td> </tr> <tr> <td>達成度</td> <td></td> </tr> </table>	目標年度	令和元年度	目標値		実績値		達成度	
目標年度	令和元年度										
目標値											
実績値											
達成度											
内容(どのような手段で何をを行ったか)	家庭教育講演会の開催	雄武町PTA連合会との共催による講演会の実施									
	家庭教育学級の開設	PTAが中心となって取り組む、レクリエーション等の実施									

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	家庭教育に関する学びを創出する場の提供は、教育行政が担う必要がある。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
/課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

概ね有効	<input type="checkbox"/>	設定した目標値の達成状況	家庭教育講演会の開催は計画どおり実施できたが、家庭教育学級の開設は目標値には至らなかった。
有効/概ね有効	<input type="checkbox"/>	達成	
/課題あり	<input checked="" type="checkbox"/>	ほぼ達成 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	<input type="checkbox"/>	判断の理由	講演会参加者へのアンケート結果では高い評価が得られており、満足度の高い内容であった。
効率的/概ね効率的	<input type="checkbox"/>	事業費抑制	
/課題あり	<input type="checkbox"/>	人員削減	
	<input checked="" type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減 その他	

(4)事務事業の公平性

公平	<input type="checkbox"/>	判断の理由	講演会は誰でも参加できる内容であったため、公平性は保たれている。
公平/概ね公平	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
/公平でない	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
	<input checked="" type="checkbox"/>	受益が一部に偏る その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
B		
講演会は計画どおり実施できたが、学級の開設が目標値を下回っている。		



継続/現状維持		
家庭教育学級における各学校の取組について、周知徹底を図り、開設増を目指す。		

※展開方向の区分
○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
○終了 ○休止 ○廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書 兼 事 務 事 業 事 後 評 価 調 書

様式 1

No. 12020040

政策目標	3	のびやか・雄武～教育・文化の振興～	会 計 区 分	1	一般会計	【全体計画内容】※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	12	学校教育の充実	事 業 優 先 度		B	
単位施策	1	小中学校の教育内容の充実	政 策 事 務 分 類	3	単独自治事務(その他)	
事業名	社会教育関係団体活動費補助事業		見 直 し 年 度			
事業期間	平成30年度～令和4年度		担 当 課	12	教育委員会教育振興課	
事業主体	雄武町		関 係 課		#N/A	
事業指標	社会教育関係団体の育成				#N/A	
事業目標	社会教育関係3団体への助成		ハート／ソフト事業区分	2	ソフト事業	
町民参加	有		関係例規・法令名	無		
町民協働	社会教育団体の加入・育成		関係個別計画名	無		

全 体 計 画		平 成 3 0 年 度	令 和 元 年 度	令 和 2 年 度	令 和 3 年 度	令 和 4 年 度	
事 業 内 容		事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容	
計 画 内 容	社会教育関係団体への活動費補助		雄武町文化連盟 320千円 雄武町子ども育成会 230千円 雄武町PTA連合会 100千円	雄武町文化連盟 320千円 雄武町子ども育成会 230千円 雄武町PTA連合会 100千円	雄武町文化連盟 320千円 雄武町子ども育成会 230千円 雄武町PTA連合会 100千円	雄武町文化連盟 320千円 雄武町子ども育成会 230千円 雄武町PTA連合会 100千円	
	計 画 事 業 費	事業費(千円)	3,250	650	650	650	650
		財源内訳					
		国庫支出金	0				
		道支出金	0				
		地方債	0				
その他	0						
一般財源	3,250	650	650	650	650		
実 績 事 業 費	事業費(千円)	1,300	650	650	0	0	
	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
その他	0						
一般財源	1,300	650	650				
関 連 事 項	特定財源の名称		(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	
		【 評 価 ・ 実 績 】	雄武町文化連盟 320千円 雄武町子ども育成会 230千円 雄武町PTA連合会 100千円	雄武町文化連盟 320千円 雄武町子ども育成会 230千円 雄武町PTA連合会 100千円			
			※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	
			A-継続/現状維持	A-継続/現状維持			
			3団体への助成	3団体への助成	3団体への助成	3団体への助成	
	第5期計画からの継続 (継続有り)		年度目標値				
	年度達成率	100%	100%	0%	0%		
後期計画への継続 (継続有り)	全体達成率	20%	40%	40%	40%		
	備考欄						

事業名	社会教育関係団体活動費補助事業	評価者 管理職 職氏名	教育振興課長	中村 文隆
		評価者 作成者 職氏名	生涯教育係主事	砂原 雄爾

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

誰、何が(対象)	社会教育関係団体	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	3団体への助成															
抱える課題やニーズ	人口減による少子高齢化等によって、社会教育団体の活動が停滞傾向にある。	指標(指標計算式/解説)	<table border="1"> <tr> <th colspan="2">目標年度</th> <th>令和元年度</th> </tr> <tr> <td>①</td> <td>文化連盟</td> <td>3団体</td> </tr> <tr> <td></td> <td>子ども育成会</td> <td>3団体</td> </tr> <tr> <td></td> <td>PTA連合会</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2">達成度</td> <td>100.0%</td> </tr> </table>	目標年度		令和元年度	①	文化連盟	3団体		子ども育成会	3団体		PTA連合会		達成度		100.0%
目標年度		令和元年度																
①	文化連盟	3団体																
	子ども育成会	3団体																
	PTA連合会																	
達成度		100.0%																
どのような状態になることを目指したのか(意図)	社会教育団体については自主財源に乏しいことから、活動費の一部を助成することによって活発な活動を促す。	②	<table border="1"> <tr> <th colspan="2">目標年度</th> <th>令和元年度</th> </tr> <tr> <td></td> <td>目標値</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>実績値</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2">達成度</td> <td></td> </tr> </table>	目標年度		令和元年度		目標値			実績値		達成度					
目標年度		令和元年度																
	目標値																	
	実績値																	
達成度																		
その結果、どのような成果を實現したいか ※成果=目的	社会教育活動に興味・関心ある町民が、その活動を通じてつながり意識や町民同士の絆を育み、町の活性化が図られる。																	
内容(どのような手段で何を行ったか)	社会教育関係団体への助成	文化連盟(320千円)、子ども育成会(230千円)、PTA連合会(100千円)																

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	社会教育活動を担う中核的団体に対する補助は、町の活性化につながり、また、町民の交流を深め様々なつながりが生まれることによって、地域の学びに貢献する。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
/課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	各団体においては、活発に事業展開をしており、期待する効果が得られている。
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成	
有効/概ね有効	<input type="checkbox"/> ほぼ達成	
/課題あり	<input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	補助金を交付するにあたり、事業内容、予算及び決算を精査し、適正な助成を行っていることから、効率性は保たれている。
	<input type="checkbox"/> 事業費抑制	
	<input type="checkbox"/> 人員削減	
効率的/概ね効率的	<input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減	
/課題あり	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	社会教育活動を推進する中核的団体に対する助成であることから、公平性は保たれている。
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がない	
公平/概ね公平	<input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る	
/公平でない	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

- A: 計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
- B: ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
- C: 当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
- D: 事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
各社会教育関係団体は、いずれも自主事業の展開を図っており、それぞれの分野において、本町の社会教育推進に寄与している。		



継続/現状維持		
本町の社会教育推進のため、各社会教育関係団体に対する支援を行う本事業は、継続していく必要がある。		

※展開方向の区分
 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
 終了 休止 廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書 兼 事 務 事 業 事 後 評 価 調 書

様式 1

No. 12020041

政策目標	3	のびやか・雄武～教育・文化の振興～	会 計 区 分	1	一般会計	【全体計画内容】※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	12	学校教育の充実	事 業 優 先 度		B	
単位施策	1	小中学校の教育内容の充実	政 策 事 務 分 類	3	単独自治事務(その他)	
事業名	雄武町子ども育成会50周年記念事業		見 直 し 年 度			
事業期間	令和元年度～令和4年度		担 当 課	12	教育委員会教育振興課	
事業主体	雄武町		関 係 課		#N/A	
事業指標	50周年事業の開催				#N/A	
事業目標	記念誌の発行		ハート／ソフト事業区分	2	ソフト事業	
町民参加	無		関 係 例 規 ・ 法 令 名	無		
町民協働			関 係 個 別 計 画 名	無		

全 体 計 画 事 業 内 容		平 成 30 年 度 事 業 内 容	令 和 元 年 度 事 業 内 容	令 和 2 年 度 事 業 内 容	令 和 3 年 度 事 業 内 容	令 和 4 年 度 事 業 内 容	
計 画 内 容	雄武町子ども育成会50周年記念事業の開催		記念誌の発行 ・記念誌製本 60千円 ・需用費 20千円 用紙代、インク代				
	事業費(千円)	80	0	80	0	0	
計 画 事 業 費	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
	その他	0					
	一般財源	80		80			
実 績 事 業 費	事業費(千円)	80	0	80	0	0	
	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
	その他	0					
	一般財源	80		80			
関 連 事 項	特定財源の名称	【評価・実績】	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	
				記念誌の発行 100部			
			※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果
				A-終了			
				記念誌の発行			
	第5期計画からの継続 (継続無し)		年度目標値				
			年度達成率	#DIV/0!	100%	#DIV/0!	#DIV/0!
後期計画への継続 (継続無し)	全体達成率	0%	100%	100%	100%		
	備考欄						

事業名	雄武町子ども育成会50周年記念事業	評価者 管理職 職氏名	教育振興課長	中村 文隆
		評価者 作成者 職氏名	生涯教育係主事	砂原 雄爾

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

誰、何が(対象)	雄武町子ども育成会	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	記念誌の発行								
抱える課題やニーズ	雄武町子ども育成会の発足から50年を迎えることから、今後の発展と活動の充実を図るためにも、半世紀を区切りとした記念事業の開催が必要である。	指標(指標算式/解説)	目標値及び実績値								
どのような状態になることを目指したのか(意図)	50周年記念事業として記念誌を発行し、現在までの活動内容を振り返ることで、青少年教育に対する意識を向上させる。	① 記念誌の発行	<table border="1"> <tr> <td>目標年度</td> <td>令和元年度</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td>1回</td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td>1回</td> </tr> <tr> <td>達成度</td> <td>100.0%</td> </tr> </table>	目標年度	令和元年度	目標値	1回	実績値	1回	達成度	100.0%
目標年度	令和元年度										
目標値	1回										
実績値	1回										
達成度	100.0%										
その結果、どのような成果を実現したか ※成果=目的	長年地域の青少年育成事業の中心的役割を担ってきた当会の活動について、50周年を機に一層推進していくことで、本町における青少年教育の活性化が図られる。	②	<table border="1"> <tr> <td>目標年度</td> <td>令和元年度</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td></td> </tr> <tr> <td>達成度</td> <td></td> </tr> </table>	目標年度	令和元年度	目標値		実績値		達成度	
目標年度	令和元年度										
目標値											
実績値											
達成度											
内容(どのような手段で何をを行ったか)	記念誌の発行	記念誌の編集及び関係団体等への配布									

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	半世紀の区切りである50周年記念事業を実施することは、今後の活動の糧となり、また、各種事業の充実を図る観点からも重要なものである。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	50周年記念誌を発行し、現在までの活動内容を振り返ったことは、今後実施する各種事業の充実に関わりと考える。
有効/概ね有効	<input checked="" type="checkbox"/> 達成	
課題あり	<input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上的コストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	今後の活動を推進する上で、青少年教育の意識の向上が図られ、効率的な活動に取り組むことが期待される。
効率的/概ね効率的	<input type="checkbox"/> 事業費抑制	
課題あり	<input type="checkbox"/> 人員削減 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input checked="" type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

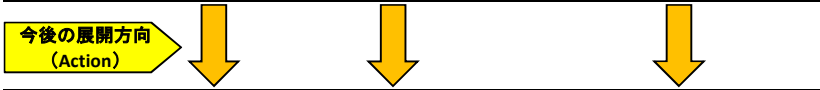
公平	判断の理由	雄武町子ども育成会については、本町の青少年活動の中核的団体であり、その活動は住民にも十分認知されており、50周年の節目に事業を実施することは理解が得られるものとする。
公平/概ね公平	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある	
公平でない	<input type="checkbox"/> 受益者負担がない <input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る <input checked="" type="checkbox"/> その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A 雄武町子ども育成会50周年記念事業として、計画どおり記念誌の発行を行うことができた。		



終了 50周年記念事業は記念誌の発行をもって終了とするが、青少年教育の活性化のため、今後も雄武町子ども育成会の活動の充実に向けた取組を進めていくこととする。		
---	--	--

※展開方向の区分
○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
○終了 ○休止 ○廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書 兼 事 務 事 業 事 後 評 価 調 書

様式 1

No. 12020050

政策目標	3	のびやか・雄武～教育・文化の振興～	会 計 区 分	1	一般会計	【全体計画内容】※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	12	学校教育の充実	事 業 優 先 度		B	
単位施策	2	小中学校の教育環境の充実	政 策 事 務 分 類	3	単独自治事務(その他)	
事業名	社会体育団体活動費助成事業		見 直 し 年 度			
事業期間	平成30年度～令和4年度		担 当 課	12	教育委員会教育振興課	
事業主体	雄武町		関 係 課		#N/A	
事業指標	団体数				#N/A	
事業目標	体育連盟～20 スポーツ少年団～4		ハート／ソフト事業区分	2	ソフト事業	
町民参加	有	スポーツ団体の加入・育成	関 係 例 規 ・ 法 令 名	無		
町民協働			関 係 個 別 計 画 名	無		

全 体 計 画		平 成 30 年 度	令 和 元 年 度	令 和 2 年 度	令 和 3 年 度	令 和 4 年 度
事 業 内 容		事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容
計 画 内 容	体育連盟・スポーツ少年団への活動費助成	体育連盟(400千円) スポーツ少年団(140千円)	体育連盟(400千円) スポーツ少年団(140千円)	体育連盟(400千円) スポーツ少年団(140千円)	体育連盟(400千円) スポーツ少年団(140千円)	体育連盟(400千円) スポーツ少年団(140千円)
	事業費(千円)	2,700	540	540	540	540
計 画 事 業 費	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
	その他	0				
一般財源	2,700	540	540	540	540	
実 績 事 業 費	事業費(千円)	1,080	540	540	0	0
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
その他	0					
一般財源	1,080	540	540			
関 連 事 項	特定財源の名称	【 評 価 ・ 実 績 】	(実施内容等) 体育連盟(400千円) 少年団(140千円)	(実施内容等) 体育連盟(400千円) 少年団(140千円)	(実施内容等)	(実施内容等)
	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	
第5期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値 2団体への助成	100%	100%	0%	0%	
後期計画への継続 (継続有り)	全体達成率 備考欄	20%	40%	40%	40%	

事業名	社会体育団体活動費助成事業	評価者 管理職 職氏名	教育振興課長	中村 文隆
		評価者 作成者 職氏名	生涯教育係主事	砂原 雄爾

様式1
令和元年度実施
令和2年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

誰、何が(対象)	体育連盟・スポーツ少年団本部	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	加盟団体の維持	
抱える課題やニーズ	町内の各スポーツ団体・少年団活動の活性化		指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値
どのような状態になることを目指したのか(意図)	町内の各スポーツ団体・少年団活動は、いずれも自主財源に乏しいことから、体育連盟及びスポーツ少年団本部を通じて、活動費の一部を助成することにより、活発な活動を促す。	① 体育連盟加盟団体数	目標年度	令和元年度
その結果、どのような成果を 実現したいか ※成果=目的	スポーツに親しむ町民の拡充とスポーツを通じて地域の活性化を図る。		目標値	14 団体
			実績値	14 団体
		② スポーツ少年団加盟団体数	達成度	100.0 %
			目標年度	令和元年度
			目標値	3 団体
			実績値	3 団体
			達成度	100.0 %
内容(どのような手段で何を 行ったか)	団体への助成	体育連盟(400千円)、スポーツ少年団(140千円)		

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	町内の各スポーツ団体及び少年団は、スポーツ活動を通じた地域の活性化や将来の指導者を育成する役割を担っていることから、基幹団体となる体育連盟及びスポーツ少年団を通じた育成・支援は、教育行政が担う必要がある。
必要/概ね必要 /課題あり	<input type="checkbox"/>	全部	
	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況		体育連盟及びスポーツ少年団本部の主催事業は実施されていないが、加盟団体は主催事業や参加事業を通じて主体的な活動を行っており、期待した効果が得られている。
	<input checked="" type="checkbox"/>	達成	
有効/概ね有効 /課題あり	<input type="checkbox"/>	ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由		補助金を交付するにあたり、事業内容、予算及び決算を精査し、適正な助成を行っていることから、効率性は保たれている。
	<input type="checkbox"/>	事業費抑制	
効率的/概ね効 率的/課題あり	<input type="checkbox"/>	人員削減	
	<input type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減	
	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由		社会体育活動を推進する中核的団体に対する助成であることから、公平性は保たれている。
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
公平/概ね公平 /公平でない	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/>	受益が一部に偏る	
	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A～D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
体育連盟及びスポーツ少年団本部の主催事業は実施されていないが、加盟団体が活発に活動しており、本町のスポーツ振興に寄与している。		



継続/現状維持		
本町のスポーツ推進のため、各スポーツ団体・少年団の育成、支援を行う本事業は継続していく必要がある。		

※展開方向の区分
○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
○終了 ○休止 ○廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書 兼 事 務 事 業 事 後 評 価 調 書

様式 1

No. 12020070

政策目標	3	のびやか・雄武～教育・文化の振興～	会 計 区 分	1	一般会計	【全体計画内容】※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	12	学校教育の充実	事 業 優 先 度		B	
単位施策	2	小中学校の教育環境の充実	政 策 事 務 分 類	1	単独自治事務(例規)	
事業名	雄武町スポーツ振興事業		見 直 し 年 度			
事業期間	平成30年度～令和4年度		担 当 課	12	教育委員会教育振興課	
事業主体	雄武町		関 係 課		#N/A	
事業指標	申請件数				#N/A	
事業目標	個人2 団体1		ハート/ソフト 事業区分	2	ソフト事業	
町民参加	有	各種大会に出場する個人・団体への経費の補助	関係例規・法令名	有	雄武町スポーツ振興事業補助金交付要綱	
町民協働			関係個別計画名	無		

全 体 計 画		平 成 30 年 度	令 和 元 年 度	令 和 2 年 度	令 和 3 年 度	令 和 4 年 度
事 業 内 容		事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容
計 画 内 容	スポーツ振興補助	スポーツ振興補助	スポーツ振興補助	スポーツ振興補助	スポーツ振興補助	スポーツ振興補助
	各種スポーツの分野で全道大会以上に出場する個人・団体に対して必要経費の一部を助成する。					
計 画 事 業 費	事業費(千円)	2,750	400	400	650	650
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
	その他	0				
一般財源	2,750	400	400	650	650	
一般財源	2,750	400	400	650	650	
実 績 事 業 費	事業費(千円)	971	261	710	0	0
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
	その他	0				
一般財源	971	261	710			
関 連 事 項	特定財源の名称		(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)
			高校陸上部 196千円(7名)	高校陸上部 494千円(15名)		
			高校陸上部 65千円(1名)	個人(雄卓会) 16千円(4名)		
				高校ソフトテニス部91千円(3名)		
				高校卓球部109千円(5名)		
		【評価・実績】				
		※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果
		A-継続/現状維持	A-継続/現状維持			
第5期計画からの継続(継続有り)	年度目標値	個人2、団体1	個人2、団体1	個人2、団体2	個人2、団体2	個人2、団体2
	年度達成率	65%	178%	0%	0%	0%
後期計画への継続(継続有り)	全体達成率	9%	35%	35%	35%	35%
	備考欄					

事業名	雄武町スポーツ振興事業	評価者 管理職 職氏名	教育振興課長	中村 文隆
		評価者 作成者 職氏名	生涯教育係主事	砂原 雄爾

様式1
令和元年度実施
令和2年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

誰、何が(対象)	町民	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	大会出場個人(2人)、団体(1団体)		
抱える課題やニーズ	全道・全国大会への出場に際し、出場者の経済的負担が大きい。	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値		
どのような状態になることを目指したのか(意図)	大会出場者の経済的負担が軽減される。	① 個人	目標年度	令和元年度	
その結果、どのような成果を實現したいか ※成果=目的	レベルが高い大会への出場を促進することにより、本町のスポーツ愛好家の競技に関する技術や意識の向上を図るとともに、指導者としてその技能を町民に還元してもらい、本町のスポーツの活性化を目指す。		目標値	2人	
		実績値	21人		
内容(どのような手段で何を行ったか)	全道・全国大会出場の助成	全道・全国大会出場者に対し助成を行った。	達成度	1050.0%	
			② 団体	目標年度	令和元年度
				目標値	1団体
			実績値	0団体	
			達成度	0.0%	

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	高いレベルの大会に出場することは、出場者の競技レベルの向上につながるほか、本町のPR効果も期待できることから、出場者の大会出場に係る経済的負担軽減は教育行政が担う必要がある。
必要/概ね必要/課題あり	<input type="checkbox"/>	全部	
	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	目標を大幅に上回る制度の利用があったことから、本町スポーツ活動の活性化と競技意欲及びレベルの向上が図られている。
有効/概ね有効/課題あり	<input checked="" type="checkbox"/> 達成	
	<input type="checkbox"/> ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	申請内容を精査の上、実費に対して基準に基づく定率の補助を行っていることから、効率的である。
効率的/概ね効率的/課題あり	<input type="checkbox"/> 事業費抑制	
	<input type="checkbox"/> 人員削減	
	<input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減	
	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

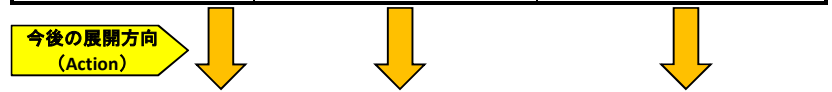
公平	判断の理由	大会成績を基準に助成していることから、公平性は保たれている。
公平/概ね公平/公平でない	<input checked="" type="checkbox"/> 受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る	
	<input type="checkbox"/> その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A～D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
経済的負担を軽減することにより、全道・全国大会出場への促進効果があった。		



継続/現状維持		
スポーツ活動の推進、指導者育成、大会出場者が培った技術の町民への還元、本町のPR効果など、多くの効果が期待できることから、継続する必要がある。		

※展開方向の区分

- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
- 終了 ○休止 ○廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書 兼 事 務 事 業 事 後 評 価 調 書

様式 1

No. 12020090

政策目標	3	のびやか・雄武～教育・文化の振興～	会 計 区 分	1	一般会計	【全体計画内容】※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	12	学校教育の充実	事 業 優 先 度		B	
単位施策	2	小中学校の教育環境の充実	政 策 事 務 分 類	3	単独自治事務(その他)	
事業名	スポーツイベント参加助成金		見 直 し 年 度			
事業期間	平成30年度～令和4年度		担 当 課	12	教育委員会教育振興課	
事業主体	雄武町		関 係 課	9	産業振興課	
事業指標	オホーツクサイクリングへの町民の参加支援				#N/A	
事業目標	参加者の確保		ハート/ソフト事業区分	2	ソフト事業	
町民参加	有	町民利用を目的としている	関係例規・法令名	有	雄武町スポーツイベント参加助成金交付要綱	
町民協働			関係個別計画名	無		

全 体 計 画		平成 30 年度	令和 元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
事 業 内 容		事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容
計 画 内 容	オホーツクサイクリング参加費の一部助成					
	小学生5名×5千円(25千円) 中学生2名×5千円(10千円) 高校生2名×7千円(15千円) 一般20名×5千円(100千円)	小学生5名×5千円(25千円) 中学生2名×5千円(10千円) 高校生2名×7千円(15千円) 一般20名×5千円(100千円)	小学生5名×5千円(25千円) 中学生2名×5千円(10千円) 高校生2名×7千円(15千円) 一般20名×5千円(100千円)			
計 画 事 業 費	事業費(千円)	300	150	150	0	0
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
	その他	0				
一般財源	300	150	150			
実 績 事 業 費	事業費(千円)	200	90	110	0	0
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
	その他	0				
一般財源	200	90	110			
関 連 事 項	特定財源の名称		(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)
	【 評 価 ・ 実 績 】		小学生 2名 一 般 16名	小学生 3名 中学生 3名 一 般 16名		
			※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 B-終了	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果
	第5期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値	参加者29人	参加者29人		
	後期計画への継続 (継続無し)	年度達成率	60%	73%	#DIV/0!	#DIV/0!
		全体達成率	30%	67%	67%	67%
	備考欄					

事業名	スポーツイベント参加助成金	評価者 管理職 職氏名	教育振興課長	中村 文隆
		評価者 作成者 職氏名	生涯教育係主事	砂原 雄爾

様式1
令和元年度実施
令和2年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

誰、何が(対象)	町民	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	助成者数	
抱える課題やニーズ	オホーツクサイクリングに参加する町民の減少。			
どのような状態になることを目指したのか(意図)	参加費の一部を助成することにより、町民のオホーツクサイクリングへの参加を促す。	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
その結果、どのような成果を実現したいか ※成果=目的	参加費の一部を助成することにより、町民のオホーツクサイクリング参加者の増加による大会の盛り上がり、大会を通じた町の活性化を図る。	① 助成者数	目標年度	令和元年度
			目標値	29人
			実績値	22人
			達成度	75.9%
		②	目標年度	令和元年度
				目標値
			実績値	
			達成度	
内容(どのような手段で何を行ったか)	オホーツクサイクリング参加費助成	町内からの大会参加者に対し、参加費の一部を助成(助成額:小学生5千円、中学生5千円、高校生7千円、一般5千円)		

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	オホーツクサイクリングは歴史のあるイベントであり、町を挙げたイベントの一つであるが、近年は参加者が減少しており、町民の参加促進を図るため助成を行う必要がある。
必要/概ね必要/課題あり	<input type="checkbox"/>	全部	
	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

概ね有効	設定した目標値の達成状況	本事業の対象者のうち、高校生の出場は無かった。
有効/概ね有効/課題あり	<input type="checkbox"/> 達成	
	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	参加資格の区分の定額補助であることから、効率的である。
効率的/概ね効率的/課題あり	<input type="checkbox"/> 事業費抑制	
	<input type="checkbox"/> 人員削減	
	<input checked="" type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減	
	<input type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	大会参加資格のある全町民を対象としていることから、公平である。
公平/概ね公平/公平でない	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る	
	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

--

■総合評価【A～D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
 B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
 C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
 D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
B		
オホーツクサイクリングに参加しやすい環境整備は整えているが、目標は下回った。		

今後の展開方向
(Action)

終了		
令和元年度の第38回大会をもってオホーツクサイクリングが終了したことから、本事業についても終了する。		

※展開方向の区分
 ○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
 ○終了 ○休止 ○廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書 兼 事 務 事 業 事 後 評 価 調 書

様式 1

No. 12020091

政策目標	3	のびやか・雄武～教育・文化の振興～	会 計 区 分	1	一般会計	【全体計画内容】※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	12	学校教育の充実	事 業 優 先 度		B	
単位施策	2	小中学校の教育環境の充実	政 策 事 務 分 類	3	単独自治事務(その他)	
事業名	生涯スポーツ推進事業		見 直 し 年 度			
事業期間	令和元年度～令和4年度		担 当 課	12	教育委員会教育振興課	
事業主体	雄武町		関 係 課		#N/A	
事業指標	参加者数				#N/A	
事業目標	参加者300人		ハート/ソフト事業区分	2	ソフト事業	
町民参加	有		関 係 例 規・法 令 名	無		
町民協働	各事業ごとに参加者を募り開催		関 係 個 別 計 画 名	無		

		全 体 計 画	平 成 30 年 度	令 和 元 年 度	令 和 2 年 度	令 和 3 年 度	令 和 4 年 度
		事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容
計 画 内 容	スポーツ大会の開催			スポーツ大会の開催	スポーツ大会の開催	スポーツ大会の開催	スポーツ大会の開催
	1 さわやかスポーツ大会			1 さわやかスポーツ大会	1 さわやかスポーツ大会	1 さわやかスポーツ大会	1 さわやかスポーツ大会
	2 雪合戦			2 雪合戦	2 自治会対抗スポーツ大会	2 自治会対抗スポーツ大会	2 自治会対抗スポーツ大会
	3 自治会対抗スポーツ大会			3 運動大会	3 キンボール大会	3 キンボール大会	3 キンボール大会
	4 オムリンピック			4 自治会対抗スポーツ大会			
5 キンボール大会			5 キンボール大会				
スポーツ教室等の実施			スポーツ教室等の実施	スポーツ教室等の実施	スポーツ教室等の実施	スポーツ教室等の実施	
1 学社融合ブルームボール教室			1 学社融合ブルームボール教室	1 学社融合ブルームボール教室	1 学社融合ブルームボール教室	1 学社融合ブルームボール教室	
2 AED講習会			2 AED講習会	2 AED講習会	2 AED講習会	2 AED講習会	
3 遊びの総合運動事業～みんな元気アップ!			3 遊びの総合運動事業	3 遊びの総合運動事業	3 遊びの総合運動事業	3 遊びの総合運動事業	
4 アスリート塾						4 アスリート塾	
計 画 事 業 費	事 業 費 (千円)	5,350	0	1,170	1,050	1,050	2,080
	財 源 内 訳	国庫支出金	0				
		道支出金	0				
		地方債	0				
		その他	0				
		一般財源	5,350		1,170	1,050	1,050
実 績 事 業 費	事 業 費 (千円)	359	0	359	0	0	0
	財 源 内 訳	国庫支出金	0				
		道支出金	0				
		地方債	0				
		その他	0				
		一般財源	359		359		
関 連 事 項	特定財源の名称		(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)
		【 評 価 ・ 実 績 】		さわやかスポーツ大会 自治会対抗スポーツ大会 キンボール大会 学社融合ブルームボール教室 AED講習会 遊びの総合運動事業			
			※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果
				A-継続/現状維持			
	第5期計画からの継続	年度目標値	大会参加者300人	大会参加者300人	大会参加者200人	大会参加者200人	大会参加者300人
		年度達成率	#DIV/0!	31%	0%	0%	0%
	後期計画への継続 (継続有り)	全体達成率	0%	7%	7%	7%	7%
		備考欄					

事業名	生涯スポーツ推進事業	評価者 管理職 職氏名	教育振興課長	中村 文隆
		評価者 作成者 職氏名	生涯教育係主事	砂原 雄爾

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

誰、何が(対象)	町民	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	大会参加者								
抱える課題やニーズ	人口減少と少子高齢化の進行により、町民がスポーツに親しむ機会及びスポーツ人口が減少していることから、各種スポーツ大会やスポーツ教室などを複合的・横断的に開催し、スポーツ活動を活性化していく必要がある。	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値								
どのような状態になることを目指したのか(意図)	各種大会と講演、ワークショップなどを複合的かつ効果的に開催することで、多くの町民がスポーツに親しみ、健康増進やスポーツを通じた交流が行われる。	① 大会参加者	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>令和元年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>300人</td></tr> <tr><td>実績値</td><td>163人</td></tr> <tr><td>達成度</td><td>54.3%</td></tr> </table>	目標年度	令和元年度	目標値	300人	実績値	163人	達成度	54.3%
目標年度	令和元年度										
目標値	300人										
実績値	163人										
達成度	54.3%										
その結果、どのような成果を実現したか ※成果=目的	包括的なスポーツ活動が推進されることで、スポーツを通じた地域の活性化が図られる。	②	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>令和元年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td></td></tr> <tr><td>実績値</td><td></td></tr> <tr><td>達成度</td><td></td></tr> </table>	目標年度	令和元年度	目標値		実績値		達成度	
目標年度	令和元年度										
目標値											
実績値											
達成度											
内容(どのような手段で何をを行ったか)	スポーツ大会の開催	さわやかスポーツ大会(体育連盟加盟団体主催大会への助成)、自治会対抗スポーツ大会(パークゴルフ大会)、キンボール大会									
	スポーツ教室の開催	学社融合ブルームボール教室、AED講習会、遊びの総合運動事業									

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	人口減少と少子高齢化が進む中、町民がスポーツに親しむ機会及びスポーツ人口が減少していることから、スポーツに親しむきっかけ作りとなる本事業は、教育行政が担う必要がある。
必要/概ね必要/課題あり	<input type="checkbox"/>	全部	
	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

課題あり	設定した目標値の達成状況	大会参加者数について目標値に達しなかったことから、事業及び町民への周知方法等を見直す必要がある。
有効/概ね有効/課題あり	<input type="checkbox"/> 達成	
	<input type="checkbox"/> ほぼ達成	
	<input checked="" type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	町内外の指導者を活用し、効果的なスポーツ活動の推進が図られることから効率的である。
	<input type="checkbox"/> 事業費抑制	
	<input type="checkbox"/> 人員削減	
	<input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減	
効率的/概ね効率的/課題あり	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	全町民を対象としたものであることから、公平性は保たれている。
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る	
公平/概ね公平/公平でない	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A～D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
 B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
 C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
 D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A	A	
スポーツ教室はほぼ計画どおり実施し、内容についても概ね好評であったが、スポーツ大会については、「新型コロナウイルス感染症」の影響により、大会が実施されない状況もあったことから、目標値を下回る結果となった。	同左	



継続/現状維持	継続/現状維持	継続/現状維持
今後も、計画どおりスポーツ大会及びスポーツ教室を横断的かつ効果的に開催し、一人でも多くの町民がスポーツに親しむ社会の実現に向け、町民への周知を徹底し、参加者の増に努める。	同左	

※展開方向の区分
 ○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
 ○終了 ○休止 ○廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書 兼 事 務 事 業 事 後 評 価 調 書

様式 1

No. 12020100

政策目標	3 のびやか・雄武～教育・文化の振興～	会 計 区 分	1 一般会計	【全体計画内容】※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	12 学校教育の充実	事業優先度	B	
単位施策	4 不登校等の子どもたちへのサポートの推進	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)	
事業名	芸術文化公演事業	見直し年度		
事業期間	平成30年度～令和4年度	担当課	12 教育委員会教育振興課	
事業主体	雄武町	関係課	8 保育所	
事業指標	芸術文化鑑賞機会の充実		#N/A	
事業目標	保育所・親子、小・中・高等学校・一般鑑賞会の開催	ハード/ソフト事業区分	2 ソフト事業	
町民参加	無	関係例規・法令名	無	
町民協働		関係個別計画名	無	

全 体 計 画		平成 30 年度	令和 元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度		
事業内容		事業内容	事業内容	事業内容	事業内容	事業内容		
計 画 内 容	保育所・親子一般芸術鑑賞会 小学校芸術鑑賞会 中学校芸術鑑賞会 高等学校、一般芸術鑑賞会 文化講演会(隔年開催)	保育所・親子一般芸術鑑賞会 小学校芸術鑑賞会 中学校芸術鑑賞会 高等学校芸術鑑賞会 一般芸術鑑賞会	保育所・親子一般芸術鑑賞会 小学校芸術鑑賞会 中学校芸術鑑賞会 高等学校、一般芸術鑑賞会	保育所・親子一般芸術鑑賞会 小学校芸術鑑賞会 中学校芸術鑑賞会 高等学校、一般芸術鑑賞会 文化講演会	保育所・親子一般芸術鑑賞会 小学校芸術鑑賞会 中学校芸術鑑賞会 高等学校、一般芸術鑑賞会	保育所・親子一般芸術鑑賞会 小学校芸術鑑賞会 中学校芸術鑑賞会 高等学校、一般芸術鑑賞会 文化講演会		
	事業費(千円)	15,575	3,200	1,500	4,625	1,625	4,625	
	財 源 内 訳	国庫支出金	0					
		道支出金	0					
		地方債	0					
		その他	200			100		100
一般財源		15,375	3,200	1,500	4,525	1,625	4,525	
実績事業費	事業費(千円)	4,076	2,740	1,336	0	0	0	
関 連 事 項	【評価・実績】	特定財源の名称	(実施内容等) 保育所・小学生(315名)2公演 中学校・高等学校・一般 (360名)2公演	(実施内容等) 保育所・小学生(333名)2公演 中学校・高等学校・一般 (178名)1公演	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	
		※事務事業評価結果	A-継続/現状維持	A-継続/現状維持	鑑賞会の開催	鑑賞会の開催	鑑賞会の開催	
		第5期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値	86%	89%	0%	0%	0%
		後期計画への継続 (継続有り)	全体達成率	18%	26%	26%	26%	26%
			備考欄					

事業名	芸術文化公演事業	評価者 管理職 職氏名	教育振興課長	中村 文隆
		評価者 作成者 職氏名	生涯教育係主事	砂原 雄爾

様式1
令和元年度実施
令和2年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

誰、何が(対象)	町民	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	鑑賞会回数		
抱える課題やニーズ	町民は、様々な芸術・文化に触れる機会が不足している。		指標(指標算式/解説)	目標値及び実績値	
どのような状態になることを目指したのか(意図)	様々な芸術・文化に触れる機会を創出し、町民の芸術・文化に対する興味や理解を促進する。		① 開催回数	目標年度	令和元年度
				目標値	3回
その結果、どのような成果を実現したいか ※成果=目的	町民の芸術・文化活動への興味や理解が深まり、町の文化的な取り組みが活性化する。		②	実績値	3回
		達成度		100.0 %	
内容(どのような手段で何をを行ったか)	芸術鑑賞会の開催	保育所・小学校・中学校・高等学校・一般			

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	町民の芸術・文化に対する興味や理解を深めるため、様々な芸術や文化に触れる機会を創出することは、生涯学習の一環として必要な取組である。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
/課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況		芸術鑑賞会では、各年代に応じた鑑賞機会を提供することができた。
	<input checked="" type="checkbox"/>	達成	
	<input type="checkbox"/>	ほぼ達成	
有効/概ね有効	<input type="checkbox"/>	下回る	
/課題あり	<input type="checkbox"/>		

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

概ね効率的	判断の理由		学校等の要望を取り入れながら、計画どおり実施することができた。
	<input type="checkbox"/>	事業費抑制	
	<input type="checkbox"/>	人員削減	
	<input type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減	
効率的/概ね効率的	<input type="checkbox"/>	その他	
/課題あり	<input checked="" type="checkbox"/>		

(4)事務事業の公平性

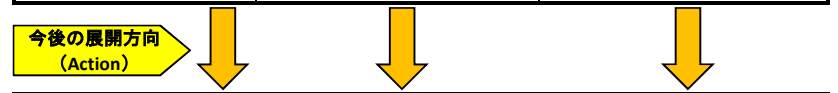
公平	判断の理由		幅広い年代層を対象としていることから、公平である。
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/>	受益が一部に偏る	
公平/概ね公平	<input type="checkbox"/>	その他	
/公平でない	<input checked="" type="checkbox"/>		

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A～D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
町民の芸術・文化への興味付けや関心が培われ、芸術・文化活動に対する理解を深めることができた。		



継続/現状維持		
生涯学習の観点から、芸術・文化活動は必要な取組であることから、今後も継続していく必要がある。		

※展開方向の区分

- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
- 終了 ○休止 ○廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書 兼 事 務 事 業 事 後 評 価 調 書

様式1

No. 12020110

政策目標	3	のびやか・雄武～教育・文化の振興～	会 計 区 分	1	一般会計	【全体計画内容】 ※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	12	学校教育の充実	事 業 優 先 度		B	
単位施策	4	不登校等の子どもたちへのサポートの推進	政 策 事 務 分 類	3	単独自治事務(その他)	
事業名	陶芸推進事業		見 直 し 年 度			
事業期間	平成30年度～令和4年度		担 当 課	12	教育委員会教育振興課	
事業主体	雄武町		関 係 課		#N/A	
事業指標	工房利用者への支援及び作陶技術の向上				#N/A	
事業目標	管理体制と愛好者への指導及び普及推進		ハート/ソフト事業区分	2	ソフト事業	
町民参加	有	町民を対象とし陶芸活動の推進を図っている	関 係 例 規 ・ 法 令 名	無		
町民協働			関 係 個 別 計 画 名	無		

全 体 計 画		平成 30 年度	令和 元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
事 業 内 容		事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容
計 画 内 容	工房施設の管理と愛好者への支援 陶芸教室等の開催	工房施設の管理と愛好者への支援 陶芸教室等の開催	工房施設の管理と愛好者への支援 陶芸教室等の開催	工房施設の管理と愛好者への支援 陶芸教室等の開催	工房施設の管理と愛好者への支援 陶芸教室等の開催	工房施設の管理と愛好者への支援 陶芸教室等の開催
	事業費(千円)	4,585	890	890	935	935
計 画 事 業 費	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
	その他	0				
一般財源	4,585	890	890	935	935	
実 績 事 業 費	事業費(千円)	1,679	872	807	0	0
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
その他	0					
一般財源	1,679	872	807			
関 連 事 項	特定財源の名称	(実施内容等) 施設管理と愛好者支援	(実施内容等) 施設管理と愛好者支援	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)
	【評価・実績】					
		※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 B-継続/現状維持	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果
	第5期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値 利用者700人	利用者700人	利用者700人	利用者700人	利用者700人
	後期計画への継続 (継続有り)	年度達成率 98%	91%	0%	0%	0%
	全体達成率 19%	37%	37%	37%	37%	
	備考欄					

事業名	陶芸推進事業	評価者 管理職 職氏名	教育振興課長	中村 文隆
		評価者 作成者 職氏名	生涯教育係主事	砂原 雄爾

様式1
令和元年度実施
令和2年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

誰、何が(対象)	町民	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	利用者数								
抱える課題やニーズ	陶芸工房施設の適切な維持管理と利用の促進	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値								
どのような状態になることを目指したのか(意図)	良好な施設環境の維持と愛好者(利用者)に対する活動支援	① 利用者数	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>令和元年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>700人</td></tr> <tr><td>実績値</td><td>487人</td></tr> <tr><td>達成度</td><td>69.6%</td></tr> </table>	目標年度	令和元年度	目標値	700人	実績値	487人	達成度	69.6%
目標年度	令和元年度										
目標値	700人										
実績値	487人										
達成度	69.6%										
その結果、どのような成果を実現したか ※成果=目的	本町における陶芸工房の活性化及び幅広い町民への普及	②	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>令和元年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td></td></tr> <tr><td>実績値</td><td></td></tr> <tr><td>達成度</td><td></td></tr> </table>	目標年度	令和元年度	目標値		実績値		達成度	
目標年度	令和元年度										
目標値											
実績値											
達成度											
内容(どのような手段で何を行ったか)	陶芸工房施設の管理(3人体制)と愛好者への支援	施設管理と愛好者への陶芸指導									
	陶芸教室等の開催	陶芸教室等の開催									

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	益子町との地域間交流の一環として進めてきたものであり、現在では本町の芸術活動のひとつとして定着していることから、継続は必要である。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
/課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	適切な施設管理で、良好な施設環境を維持することができた。指導体制も整い愛好者の活動も活発に行われている。なお、広く周知を行い教室の開催を図りたい。
有効/概ね有効	<input checked="" type="checkbox"/> 達成	
/課題あり	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	施設の人件費及び維持管理費は、適正な予算管理で行われていることから、効率性は保たれている。
効率的/概ね効率的	<input type="checkbox"/> 事業費抑制	
/課題あり	<input type="checkbox"/> 人員削減 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input checked="" type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	施設の維持管理費は、町が負担しているが、陶芸活動に関する経費については利用者が負担しており、適切な受益者負担があることから、公平である。
公平/概ね公平	<input checked="" type="checkbox"/> 受益者負担がある	
/公平でない	<input type="checkbox"/> 受益者負担がない <input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る <input type="checkbox"/> その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A～D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
B		
本町での陶芸活動は、自主活動と併せて、愛好者達により、文化祭等での作品展示などの活動もしており、社会教育活動にも積極的に取り組んでいる。		

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持		
適切な施設管理・運営が行われており、今後はより多くの町民への普及促進のため、支援していく必要がある。		

※展開方向の区分
○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
○終了 ○休止 ○廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書 兼 事 務 事 業 事 後 評 価 調 書

様式 1

No. 12020120

政策目標	3 のびやか・雄武～教育・文化の振興～	会 計 区 分	1 一般会計	【全体計画内容】※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	12 学校教育の充実	事業優先度	B	
単位施策	4 不登校等の子どもたちへのサポートの推進	政策事務分類	1 単独自治事務(例規)	
事業名	雄武町芸術文化振興事業	見直し年度		
事業期間	平成30年度～令和4年度	担当課	12 教育委員会教育振興課	
事業主体	雄武町	関係課	#N/A	
事業指標	申請件数		#N/A	
事業目標	個人2 団体1	ハード/ソフト事業区分	2 ソフト事業	
町民参加	有	関係例規・法令名	有	雄武町芸術文化振興事業補助金交付要綱
町民協働	各種大会に出場する個人・団体への経費の補助	関係個別計画名	無	

全 体 計 画		平 成 3 0 年 度	令 和 元 年 度	令 和 2 年 度	令 和 3 年 度	令 和 4 年 度
事 業 内 容		事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容
計 画 内 容	芸術文化振興補助	芸術文化振興補助	芸術文化振興補助	芸術文化振興補助	芸術文化振興補助	芸術文化振興補助
	芸術文化の分野で全道大会以上に出場する個人・団体に対して必要経費の一部を助成する。					
計 画 事 業 費	事業費(千円)	1,500	300	300	300	300
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
	その他	0				
一般財源	1,500	300	300	300	300	
実 績 事 業 費	事業費(千円)	158	110	48	0	0
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
	その他	0				
一般財源	158	110	48			
関 連 事 項	特定財源の名称	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)
		個人(全道) 1名	個人(全国) 1名			
		個人(全国) 2名				
	【評価・実績】					
		※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果
		A-継続/現状維持	B-継続/現状維持			
第5期計画からの継続 (継続無し)	年度目標値	個人2人、団体1	個人2人、団体1	個人2人、団体1	個人2人、団体1	個人2人、団体1
後期計画への継続 (継続有り)	年度達成率	37%	16%	0%	0%	0%
	全体達成率	7%	11%	11%	11%	11%
	備考欄					

事業名	雄武町芸術文化振興事業	評価者 管理職 職氏名	教育振興課長	中村 文隆
		評価者 作成者 職氏名	生涯教育係主事	砂原 雄爾

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

誰、何が(対象)	町民	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	大会出場個人(2人)、団体(1団体)								
抱える課題やニーズ	全道・全国大会への出場に際し、出場者の経済的負担が大きい。	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値								
どのような状態になることを目指したのか(意図)	大会出場者の経済的負担が軽減される。	① 個人	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>令和元年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>2人</td></tr> <tr><td>実績値</td><td>1人</td></tr> <tr><td>達成度</td><td>50.0%</td></tr> </table>	目標年度	令和元年度	目標値	2人	実績値	1人	達成度	50.0%
目標年度	令和元年度										
目標値	2人										
実績値	1人										
達成度	50.0%										
その結果、どのような成果を實現したいか ※成果=目的	レベルが高い大会への出場を促進することにより、本町の芸術文化に関する技術や意識の向上を図るとともに、その技能を町民に還元してもらい、本町の芸術文化の活性化を目指す。	② 団体	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>令和元年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>1団体</td></tr> <tr><td>実績値</td><td>0団体</td></tr> <tr><td>達成度</td><td>0.0%</td></tr> </table>	目標年度	令和元年度	目標値	1団体	実績値	0団体	達成度	0.0%
目標年度	令和元年度										
目標値	1団体										
実績値	0団体										
達成度	0.0%										
内容(どのような手段で何をを行ったか)	全道・全国大会出場の助成	全道・全国大会出場者に対し助成を行った。									

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	レベルの高い大会への出場は、出場者の技術向上につながるほか、本町のPR効果も期待できることから、出場者の大会出場に係る経済的負担軽減は教育行政が担う必要がある。
必要/概ね必要/課題あり	<input type="checkbox"/>	全部	
	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	目標値には達しなかったものの、芸術文化の分野での対象者のレベル向上につながった。
有効/概ね有効/課題あり	<input type="checkbox"/> 達成	
	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	申請内容を精査し、基準に基づき補助を行っていることから、効率的である。
効率的/概ね効率的/課題あり	<input type="checkbox"/> 事業費抑制	
	<input type="checkbox"/> 人員削減	
	<input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減	
	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	大会成績を基準に助成していることから、公平性は保たれている。
公平/概ね公平/公平でない	<input checked="" type="checkbox"/> 受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る	
	<input type="checkbox"/> その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A～D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
 B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
 C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
 D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
B		
目標値には達しなかったものの、経済的負担を軽減することによって、全道・全国大会への促進効果があった。		



継続/現状維持	全道・全国大会への出場意欲と芸術文化活動の推進が期待されることから、継続する必要がある。	
---------	--	--

※展開方向の区分
 ○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
 ○終了 ○休止 ○廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書 兼 事 務 事 業 事 後 評 価 調 書

様式 1

No. 12020130

政策目標	5 ささえあい・雄武～協働によるまちづくりの推進	会計区分	1 一般会計	【全体計画内容】※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	20 防犯・交通安全の推進	事業優先度	A	
単位施策	3 #N/A	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)	
事業名	学校支援活動推進事業	見直し年度		
事業期間	平成30年度～令和4年度	担当課	12 教育委員会教育振興課	
事業主体	雄武町	関係課	#N/A	
事業指標	コーディネーターの配置、学校支援ボランティアの養成及び活動支援		#N/A	
事業目標	コーディネーターの1名配置、学校支援活動実施	ハード/ソフト事業区分	2 ソフト事業	
町民参加	有	関係例規・法令名	無	
町民協働		関係個別計画名	無	

全体計画 事業内容		平成 30 年度 事業内容	令和 元 年度 事業内容	令和 2 年度 事業内容	令和 3 年度 事業内容	令和 4 年度 事業内容
計 画 内 容	コーディネーターの配置 学校支援活動の実施	学校支援活動推進事業経費 報償費 120千円 需用費 35千円 役務費 45千円	学校支援活動推進事業経費 報償費 120千円 需用費 35千円 役務費 45千円	学校支援活動推進事業経費 報償費 120千円 需用費 35千円 役務費 45千円	学校支援活動推進事業経費 報償費 120千円 需用費 35千円 役務費 45千円	学校支援活動推進事業経費 報償費 120千円 需用費 35千円 役務費 45千円
	事業費(千円)	1,000	200	200	200	200
計 画 事 業 費	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
	その他	0				
一般財源	1,000	200	200	200	200	
実 績 事 業 費	事業費(千円)	204	66	138	0	0
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
その他	0					
一般財源	204	66	138			
関 連 事 項	特定財源の名称					
	【評価・実績】	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)
		読書活動支援校 5校 学習支援 6種類	読書活動支援校 5校 学習支援 6種類			
		※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果
		第5期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値	支援活動5校、コーディネーターの配置1名	支援活動5校、コーディネーターの配置1名	支援活動5校、コーディネーターの配置1名
	後期計画への継続 (継続有り)	年度達成率	33%	69%	0%	0%
	全体達成率	7%	20%	20%	20%	
	備考欄					

事業名	学校支援活動推進事業	評価者 管理職 職氏名	教育振興課長	中村 文隆
		評価者 作成者 職氏名	生涯教育係主事	砂原 雄爾

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

誰、何が(対象)	町内小中学校	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	全学校の開設								
抱える課題やニーズ	学校が要望する支援内容に応じたボランティアの発掘・派遣及びコーディネーターの配置	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値								
どのような状態になることを目指したのか(意図)	地域全体で学校教育を支援する体制づくり	① 小学校 4校 中学校 1校	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>令和元年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>5校</td></tr> <tr><td>実績値</td><td>5校</td></tr> <tr><td>達成度</td><td>100.0%</td></tr> </table>	目標年度	令和元年度	目標値	5校	実績値	5校	達成度	100.0%
目標年度	令和元年度										
目標値	5校										
実績値	5校										
達成度	100.0%										
その結果、どのような成果を実現したか ※成果＝目的	地域の教育力を活用することで子どもたちに多様な体験・経験の機会を提供し、効果的な教育活動を図る。	②	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>令和元年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td></td></tr> <tr><td>実績値</td><td></td></tr> <tr><td>達成度</td><td></td></tr> </table>	目標年度	令和元年度	目標値		実績値		達成度	
目標年度	令和元年度										
目標値											
実績値											
達成度											
内容(どのような手段で何を行ったか)	ボランティア募集	学校支援ボランティアを募集し、人材確保を行った。									
	読書支援	読み聞かせ(町内各小学校)									
	学習支援	長期休業期間中の学習支援、スキー授業支援									

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	地域全体で学校教育を支援する体制を構築するため、地域の教育力を活用した多様な教育活動の推進は、教育行政が担う必要がある。
必要/概ね必要/課題あり	<input type="checkbox"/>	全部	
	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	<input checked="" type="checkbox"/>	設定した目標値の達成状況	学校からの要望に応じたボランティアを概ね派遣できたことにより、教育活動の充実が図られ、効果があった。
有効/概ね有効/課題あり	<input type="checkbox"/>	達成	
	<input type="checkbox"/>	ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	<input checked="" type="checkbox"/>	判断の理由	町民によるボランティア活動によって、事業費の抑制に努めるとともに、学校備品等を活用した。
効率的/概ね効率的/課題あり	<input type="checkbox"/>	事業費抑制	
	<input type="checkbox"/>	人員削減	
	<input type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減	
	<input type="checkbox"/>	その他	

(4)事務事業の公平性

公平	<input checked="" type="checkbox"/>	判断の理由	地域の教育力を活用することで、学校教育を支援するもので、ボランティア活動を通じた地域コミュニティの活性化が図られることから、公平である。
公平/概ね公平/公平でない	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/>	受益が一部に偏る	
	<input type="checkbox"/>	その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A～D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
関係機関との連携により、様々な活動に地域ボランティアが多く関わり、学校教育の充実が図られた。		



継続/現状維持		
地域による学校支援は、児童生徒の教育向上につながるだけでなく、地域コミュニティの活性化にも期待できることから、継続して支援する必要がある。		

※展開方向の区分
○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
○終了 ○休止 ○廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書 兼 事 務 事 業 事 後 評 価 調 書

様式 1

No. 12020150

政策目標	5 ささえあい・雄武～協働によるまちづくりの推進	会計区分	1 一般会計	【全体計画内容】※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	22 町民主体のまちづくりの推進	事業優先度	A	
単位施策	3 町民との協働体制の構築	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)	
事業名	町民センター施設整備事業	見直し年度		
事業期間	平成30年度～令和4年度	担当課	12 教育委員会教育振興課	
事業主体	雄武町	関係課	#N/A	
事業指標	施設整備		#N/A	
事業目標	施設整備	ハード/ソフト事業区分	1 ハード事業	
町民参加	無	関係例規・法令名	無	
町民協働		関係個別計画名	無	

計画内容	全体計画		平成 30 年度	令和 元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	
	事業内容		事業内容	事業内容	事業内容	事業内容	事業内容	
計 画 内 容	町民センター施設整備		吊物装置修繕工事 1,231千円 刈払機更新 49千円	電気暖房機改修工事 1,080千円 エア－搬送ファン設置工事 3,120千円	印刷機更新 3,030千円 大集会室照明機器改修(1期) 15,470千円	大集会室照明機器改修(2期) 14,850千円	大集会室照明機器改修(3期) 16,140千円	
	事業費(千円)	54,970	1,280	4,200	18,500	14,850	16,140	
計 画 事 業 費	財源内訳	国庫支出金	0					
		道支出金	0					
		地方債	0					
		その他	15,000			15,000		
		一般財源	39,970	1,280	4,200	3,500	14,850	16,140
実 績 事 業 費	財源内訳	事業費(千円)	5,303	1,199	4,104	0	0	
		国庫支出金	0					
		道支出金	0					
		地方債	0					
		その他	0					
一般財源	5,303	1,199	4,104					
関 連 事 項	特定財源の名称	公共施設整備基金繰入金	(実施内容等) 吊物装置修繕工事 刈払機更新	(実施内容等) 電気暖房機改修工事 エア－搬送ファン設置工事	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	
	【評価・実績】							
	※事務事業評価結果	A-継続/現状維持	※事務事業評価結果	A-継続/現状維持	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	
	第5期計画からの継続	年度目標値	施設整備 1施設	施設整備 1施設	施設整備 1施設	施設整備 1施設	施設整備 1施設	
	後期計画への継続	年度達成率	94%	98%	0%	0%	0%	
	全体達成率	2%	10%	10%	10%	10%		
	備考欄							

事業名	町民センター施設整備事業	評価者 管理職 職氏名	教育振興課長	中村 文隆
		評価者 作成者 職氏名	生涯教育係主事	砂原 雄爾

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

誰、何が(対象)	町民センター	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	町民センター施設整備	
抱える課題やニーズ	町民センターの建物や設備の老朽化が進んでいる	指標(指標算式/解説)	目標値及び実績値	
どのような状態になることを目指したのか(意図)	計画的及び適切な整備による、良好な施設環境の維持	① 電気暖房機改修工事 エア―搬送ファン設置工事	目標年度	令和元年度
その結果、どのような成果を 実現したいか ※成果＝目的	本町の社会教育活動の拠点となる施設であることから、良好な状態を維持することで、本町の社会教育活動の活性化を図ることができる。		目標値	1施設
			実績値	1施設
			達成度	100.0 %
		②	目標年度	令和元年度
			目標値	
			実績値	
			達成度	
内容(どのような手段で何を 行ったか)	電気暖房機改修工事	2階会議室の電気暖房機を改修		
	エア―搬送ファン設置工事	大集会室に暖房温度調整エア―搬送ファンを設置		

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	老朽化等による施設備品等を放置することは、利用者の安全確保に問題が生じ、また、施設利用に支障をきたすことから、施設の改修や設備・備品等の更新は必要である。
必要/概ね必要 /課題あり	<input type="checkbox"/>	全部	
	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況		施設の設備等の適切な維持管理が図られた。
	<input checked="" type="checkbox"/>	達成	
有効/概ね有効 /課題あり	<input type="checkbox"/>	ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由		指名競争入札及び見積合わせにより業者選定を実施し、適切なコストで事業を実施することができた。
	<input type="checkbox"/>	事業費抑制	
効率的/概ね効 率的/課題あり	<input type="checkbox"/>	人員削減	
	<input type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減	
	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由		町民が広く利用する社会教育施設を対象とした事業であることから、公平である。
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
公平/概ね公平 /公平でない	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/>	受益が一部に偏る	
	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A～D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A	A	
計画どおり施設設備の改修及び設置を行い、施設環境が整った。	同左	



継続/現状維持	継続/現状維持	継続/現状維持
今後の社会教育施設整備については、長寿命化計画を念頭に置いた維持・更新コストの平準化に努めるとともに、劣化等が著しい箇所等は、財政状況や優先度等を考慮した上で、長寿命化改修など施設や教育環境の改善及び町民ニーズの対応を図る。	同左	

※展開方向の区分
○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
○終了 ○休止 ○廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書 兼 事 務 事 業 事 後 評 価 調 書

様式1

No. 12020160

政策目標	5 ささえあい・雄武～協働によるまちづくりの推進	会 計 区 分	1 一般会計	【全体計画内容】 ※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	22 町民主体のまちづくりの推進	事 業 優 先 度	A	
単位施策	3 町民との協働体制の構築	政 策 事 務 分 類	3 単独自治事務(その他)	
事業名	体育施設整備事業	見 直 し 年 度		
事業期間	平成30年度～令和4年度	担 当 課	12 教育委員会教育振興課	
事業主体	雄武町	関 係 課	#N/A	
事業指標	施設整備		#N/A	
事業目標	施設整備	ハート／ソフト 事業区分	1 ハード事業	
町民参加	無	関 係 例 規 ・ 法 令 名	無	
町民協働		関 係 個 別 計 画 名	無	

全 体 計 画		平 成 30 年 度	令 和 元 年 度	令 和 2 年 度	令 和 3 年 度	令 和 4 年 度	
事 業 内 容		事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容	
計 画 内 容	体育施設整備	スポーツセンター整備に関する調査・研究 宮の森・風の丘パークゴルフ場 カップ・ピン取替え 620千円 (ハマナスコース) (トドマツコース) (カッコウコース) (風の丘コース)	パークゴルフ場看板購入 422千円 スポーツセンター音響機器購入 1,078千円 スポーツセンター (ハマナスコース) アリーナカーテン交換 1,390千円 ロビー用備品更新 1,900千円	武道センター照明LED化 1,870千円	スポーツセンター フロアカーペット張替 1,200千円		
	事業費(千円)	8,480	620	4,790	1,870	1,200	
	財源内訳	国庫支出金	0				
		道支出金	0				
		地方債	0				
		その他	0				
		一般財源	8,480	620	4,790	1,870	1,200
	実績事業費	事業費(千円)	4,624	591	4,033	0	0
国庫支出金		0					
道支出金		0					
地方債		0					
その他		0					
一般財源	4,624	591	4,033				
関 連 事 項	特定財源の名称	(実施内容等) 宮の森・風の丘パークゴルフ場 カップ・ピン取替え (ハマナスコース) (トドマツコース) (カッコウコース) (風の丘コース) ※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	(実施内容等) パークゴルフ場看板購入 スポーツセンター音響機器購入 スポーツセンター アリーナカーテン交換 スポーツセンター ロビー用備品更新 ※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	
		【評価・実績】					
	第5期計画からの継続	年度目標値	施設整備 1施設	施設整備 2施設	施設整備 1施設	施設整備 1施設	
		年度達成率	95%	84%	0%	0%	#DIV/0!
	後期計画への継続	全体達成率	7%	55%	55%	55%	55%
		備考欄					

事業名	体育施設整備事業	評価者 管理職 職氏名	教育振興課長	中村 文隆
		評価者 作成者 職氏名	生涯教育係主事	砂原 雄爾

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

誰、何が(対象)	町民	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	社会体育施設整備								
抱える課題やニーズ	体育施設の建物及び設備の老朽化が進んでいる。	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値								
どのような状態になることを目指したのか(意図)	計画的及び適切な整備による、良好な施設環境の維持	① 社会体育施設整備(2施設)	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>令和元年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>2施設</td></tr> <tr><td>実績値</td><td>2施設</td></tr> <tr><td>達成度</td><td>100.0%</td></tr> </table>	目標年度	令和元年度	目標値	2施設	実績値	2施設	達成度	100.0%
目標年度	令和元年度										
目標値	2施設										
実績値	2施設										
達成度	100.0%										
その結果、どのような成果を実現したいか ※成果=目的	本町のスポーツ活動の拠点となる施設を良好な状態に維持することで、本町のスポーツ活動の活性化を図ることができる。	②	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>令和元年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td></td></tr> <tr><td>実績値</td><td></td></tr> <tr><td>達成度</td><td></td></tr> </table>	目標年度	令和元年度	目標値		実績値		達成度	
目標年度	令和元年度										
目標値											
実績値											
達成度											
内容(どのような手段で何をを行ったか)	<p>パークゴルフ場看板購入 パークゴルフ場看板が老朽化し、表記されているコース・規定打数が現状とそぐわないことから、新しい看板を購入し取替え</p> <p>スポーツセンター音響機器購入、アリーナカーテン交換、ロビー用備品更新 スポーツセンター館内放送設備が老朽化し施設内での放送ができないため簡易的な音響機器を購入、アリーナのカーテンが経年劣化していることからカーテンを交換、ロビーに設置している備品(机・椅子)が経年劣化していることからロビー用備品を更新</p>										

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	老朽化等による施設備品等を放置することは、利用者の安全確保に問題が生じ、また、施設利用に支障をきたすことから、施設の改修や設備・備品等の更新は必要である。
必要/概ね必要/課題あり	<input type="checkbox"/>	全部	
	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	施設の設備等の適切な維持管理が図られた。
有効/概ね有効/課題あり	<input checked="" type="checkbox"/> 達成	
	<input type="checkbox"/> ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	指名競争入札及び見積合わせにより業者選定を実施し、適切なコストで事業を実施することができた。
効率的/概ね効率的/課題あり	<input type="checkbox"/> 事業費抑制	
	<input type="checkbox"/> 人員削減	
	<input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減	
	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	町民が広く利用する社会体育施設を対象とした事業であることから、公平である。
公平/概ね公平/公平でない	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る	
	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A～D】

- A: 計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
- B: ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
- C: 当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
- D: 事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A	A	
計画どおり施設設備の改修及び設置を行い、施設環境が整った。	同左	



継続/現状維持	継続/現状維持	継続/現状維持
今後の社会体育施設整備については、長寿命化計画を念頭に置いた維持・更新コストの平準化に努めるとともに、劣化等が著しい箇所等は、財政状況や優先度等を考慮した上で、長寿命化改修など施設や教育環境の改善及び町民ニーズの対応を図る。	同左	

- ※展開方向の区分
- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
 - 終了 ○休止 ○廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書 兼 事 務 事 業 事 後 評 価 調 書

No. 12020170

政策目標	5	ささえあい・雄武～協働によるまちづくりの推進	会計区分	1	一般会計	【全体計画内容】※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	22	町民主体のまちづくりの推進	事業優先度		B	
単位施策	3	町民との協働体制の構築	政策事務分類	3	単独自治事務(その他)	
事業名	社会体育施設委託業務事業		見直し年度			
事業期間	平成30年度～令和4年度		担当課	12	教育委員会教育振興課	
事業主体	雄武町		関係課		#N/A	
事業指標	委託施設数				#N/A	
事業目標	4施設		ハート／ソフト事業区分	2	ソフト事業	
町民参加	無		関係例規・法令名	無		
町民協働			関係個別計画名	無		

		全 体 計 画	平成 30 年度	令 和 元 年 度	令 和 2 年 度	令 和 3 年 度	令 和 4 年 度
		事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容
計 画 内 容	各施設の管理業務委託						
	1 風の丘スキー場		1 風の丘スキー場	1 風の丘スキー場	1 風の丘スキー場	1 風の丘スキー場	1 風の丘スキー場
	2 宮の森・風の丘パークゴルフ場		2 宮の森・風の丘パークゴルフ場	2 宮の森・風の丘パークゴルフ場	2 宮の森・風の丘パークゴルフ場	2 宮の森・風の丘パークゴルフ場	2 宮の森・風の丘パークゴルフ場
	3 農村広場		3 農村広場	3 農村広場	3 農村広場	3 農村広場	3 農村広場
	4 ブルームボールコート		4 ブルームボールコート	4 ブルームボールコート	4 ブルームボールコート	4 ブルームボールコート	4 ブルームボールコート
計 画 事 業 費	事業費(千円)	46,670	7,950	8,880	10,000	9,920	9,920
	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債 その他	0					
一般財源	46,670	7,950	8,880	10,000	9,920	9,920	
実 績 事 業 費	事業費(千円)	16,220	7,709	8,511	0	0	0
	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債 その他	0					
一般財源	16,220	7,709	8,511				
関 連 事 項	特定財源の名称		(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)
			1 風の丘スキー場	1 風の丘スキー場			
			2 宮の森・風の丘パークゴルフ場	2 宮の森・風の丘パークゴルフ場			
			3 農村広場	3 農村広場			
			4 ブルームボールコート	4 ブルームボールコート			
		【評価・実績】	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果
第5期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値	4施設の委託業務	4施設の委託業務	4施設の委託業務	4施設の委託業務	4施設の委託業務	
	年度達成率	97%	96%	0%	0%	0%	
後期計画への継続 (継続有り)	全体達成率	17%	35%	35%	35%	35%	
	備考欄						

事業名	社会体育施設委託業務事業	評価者 管理職 職氏名	教育振興課長	中村 文隆
		評価者 作成者 職氏名	生涯教育係主事	砂原 雄爾

令和元年度実施
令和2年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

誰、何が(対象)	各社会体育施設	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	4施設の委託業務	
抱える課題やニーズ	施設を良好な状態に維持管理し、町民の利用に供する		指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値
どのような状態になることを目指したのか(意図)	民間活力の利用による効率的な体育施設の維持管理と、金管企業の柔軟性によりサービスを提供	① 風の丘スキー場 宮の森・風の丘パークゴルフ場 農村広場 ブルームボールコート	目標年度	令和元年度
その結果、どのような成果を実現したいか ※成果=目的	維持管理コストを抑制することで、町の財政的負担を軽減するとともに、利用者に対してより良いサービスの提供が図られる。		目標値	4施設
内容(どのような手段で何を行ったか)	各社会体育施設の管理委託	風の丘スキー場、宮の森・風の丘パークゴルフ場、農村広場、ブルームボールコート	実績値	4施設
			達成度	100.0%
			②	目標年度
			目標値	
			実績値	
			達成度	

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	各施設は、不特定多数の利用があり、受付。備品貸出等の業務が発生することから、管理人の常駐が必要である。また、民間活力を活用した効率的な維持管理のため、本事業は必要である。
必要/概ね必要/課題あり	<input type="checkbox"/>	全部	
	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	<input checked="" type="checkbox"/>	設定した目標値の達成状況	施設の安全管理は十分行われており、良好な状態を保っている。
有効/概ね有効/課題あり	<input type="checkbox"/>	達成	
	<input type="checkbox"/>	ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	<input type="checkbox"/>	判断の理由	指名競争入札及び見積合わせにより業者選定を実施し、適切なコストで事業を実施することができた。
効率的/概ね効率的/課題あり	<input type="checkbox"/>	事業費抑制	
	<input type="checkbox"/>	人員削減	
	<input type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減	
	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

(4)事務事業の公平性

公平	<input type="checkbox"/>	判断の理由	町民が広く利用する施設の維持管理業務であることから、公平である。
公平/概ね公平/公平でない	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/>	受益が一部に偏る	
	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

- A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
- B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
- C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
- D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
施設の適切かつ効率的な維持管理が図られた。		



継続/現状維持		
施設の維持管理は今後も必要であることから、継続していく必要がある。		

※展開方向の区分

- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
- 終了 ○休止 ○廃止